

# 中国人男子私費留學生のアルバイト経験とキャリア意識

黄 美 蘭

## 1. 問題の所在と研究目的

外国人私費留學生は日本での生活や勉学のために「親・兄弟または親戚からの仕送り」「アルバイト」「奨学金」などを主な収入源としている（日本学生支援機構，2016）。その中で、「アルバイト」を主な収入源としている割合は、平成17年度の84.4%から平成27年度の75.8%と減少傾向にある（日本学生支援機構，2006；2016）ものの、未だに多くの私費留學生が日本での生活をアルバイトに頼っている現状は変わらない。外国人私費留學生がアルバイトに従事する目的として、「日本での生活を維持するために必要だから（71.1%）」が最も多く、次いで「日本人との交流等良い機会になるから（21.5%）」「教養・娯楽等にあてる費用を得るため（4.7%）」の順になっている（日本学生支援機構，2016）。黄（2015）では、中国人女子私費留學生は「心理的満足」などの「自己満足」や「生活費のため」などの「金銭獲得」、「（たまたま）先輩の紹介があったから」などの「消極的」な目的を持ってアルバイトに従事しているとしている。

外国人私費留學生のアルバイト経験に関しては、これまでに多くの研究が行われた。例えば、アルバイト先の日本人との接触において多くの留學生が「被差別感」を抱えていることが明らかになっている（加賀美，1994；岡・深田，1994；山田，2010；黄，2010など）。その一方で、アルバイトの経験をポジティブなものとして捉えている先行研究も少なくない。例えば、私費留學生は「アルバイトは日本語の勉強に役に立つ」としており、アルバイトを日本語学習の重要なリソースとして意識している（小島，2003）。また、中国人女子私費留學生はアルバイトを通して、「自己認識」「日本社会・日本人への認識」「生活手段」について肯定的に認識している（黄，2015）ことが報告されている。外国人私費留學生は「日本での生活のために」アルバイトに従事していることが多いことが示されているが、アルバイトを通して様々なメリットを感じている様子が窺える。

留學生のアルバイト経験に関しては、アルバイトに従事した動機づけが職務満足感やアルバイトを通して得られた肯定感に影響を与えるという指摘がある。まず、譚・渡邊・今野（2009）は、中国人留學生を対象に、動機づけの自己決定性が在日中国人留學生・就學生の仕事満足感に及ぼす影響について検討し、内発的動機づけを高く持ってアルバイトに従事することがアルバイト活動において満足感を高めると述べている。次に、黄（2015）では、中国人女子私費留學生を対象に、アルバイトに従事した目的とアルバイトを通して得た肯定感の関連を明らかにし、内発的目的を持ってアルバイトに従事する場合、日本人と日本社会への理解や日本人との人間関係に対する肯定感が多く見られると述べている。さらに、対象者を留學生に限定した研究ではないが、加藤・伊藤・石橋・小石（2002）では、日本人大学生を対象に、自己決定理論に基づくアルバイトの動機づけのタイプと職務満足感の関連について検討した。その結果、自己決定性が高いとされる内発的動機づけと統合的動機づけ<sup>1</sup>タイプほど、職務内容や対人関係に関する満足感

が高いことが明らかになった。このように、アルバイトに従事した動機づけやアルバイトの目的はアルバイトについての捉え方やアルバイト先で形成される人間関係に影響を与えると思われる。

また、アルバイト経験に関しては、大学生のキャリア意識に影響を及ぼしているという指摘がある。まず、杉山（2009）では、アルバイトに従事することがキャリア意識にどのような影響を及ぼすのかについて調査した。アルバイト経験の有無とキャリア意識について検討した結果、アルバイト継続群の就業動機（対人志向）が経験なし群に比べて高いことが確認された。次に、関口（2010）においては、アルバイト経験が豊富な学生ほど、主体的ジョブデザイン行動をする頻度が高いと述べ、多様なスキルを用いるアルバイトをしている学生、及びアルバイト先で仕事に主体的に関わっている学生ほど、キャリア形成の度合いが高まっているとしている。また、西・柳澤（2010）においては、アルバイト活動を通して職務遂行スキルや態度の獲得に関わる学習を遂げた学生ほど、アルバイトを通して学んだことを将来の職業へ生かそうとしており、積極的な職業探索の行動をとっている。最後に、黄（2015）は、「金銭獲得」という外発的の目的を持ってアルバイトに従事し、博士後期課程に在籍している中国人女子私費留学生は、卒業後の仕事について明確なビジョンを持っているため、アルバイトの経験が将来のキャリアにあまり役に立たないと認識する傾向にあると述べている。このように、アルバイトに従事した目的やアルバイトの経験、アルバイトを通して獲得したスキルは将来のキャリア選択やキャリア意識に影響を及ぼすことが示されている。

さらに、アルバイト経験がキャリア意識に与える影響については、性差があるという指摘がある。宮本（2009）では、高校生を対象に、性別の違いに着目し、アルバイトが進路志望に与える影響について検討した。そこでは、男子ではアルバイトの中身（時間、充実感が得られる活動をしているかどうか）が進路志望に影響を与えるのに対して、女子ではそもそも「進路のため」という目的意識が高いかどうかの影響を与えている。また、川田・真家・鈴木・木内・高橋・金塚・深谷・藤後（2012）では、大学生における学校生活満足度について、進路への意識やアルバイトの実施状況との関連から検討しており、男子大学生の場合のみ、アルバイトの実施状況（実施時間と実施頻度）と学習場面での満足度が負の相関関係を示したと述べている。このように、アルバイトの経験やアルバイトの実施状況は進路志望や学習場面の満足度に影響を与えており、性差があると考えられる。

最後に、大学生にとってアルバイトは、学生の立場で企業への適応や仕事の方法を学習することができる活動であり、アルバイトで働くことと組織で個人が社員として働くことは多くの共通点があるため、アルバイト先で学んだことが職業選択に影響を及ぼす（西・柳澤，2010）ことが指摘されている。留学生にとって、アルバイト先は学外の日本人や日本社会と接触できる場所であり、アルバイト先では日本人の労働価値観や日本の職務習慣・スタイルについて学ぶことができると考えられる。日本の大学や大学院などで学業を終え、その後、日本の企業等へ就職する留学生は増加傾向にある（厚生労働省，2016）中、アルバイトの経験が将来のキャリア意識に及ぼす影響を検討することは、留学生が日本の企業等で働く上で、大きな意義を持つと思われる。

しかし、これまでに、外国人私費留学生を対象に、アルバイトの経験やその経験が将来のキャリアに及ぼす影響について検討した研究は数少ない。そこで、本研究では中国人男子私費留学生を対象に、アルバイトに従事した目的、アルバイトを通して得たと認識する肯定感（以下、アルバイトの肯定感）及びアルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす影響（以下、キャリアへの影響）について明らかにすることを一つ目の目的とする（研究1）。また、進路予定の違いによって、アルバイトの目的、アルバイトの肯定感、キャリアへの影響はどのように異なるのかを検討することを二つ目の目的とする（研究2）。

## 2. 研究方法

### 2-1. 調査時期及び調査方法

2016年9月から10月にかけて、都内の大学・大学院に在学する中国人男子私費留学生5名を対象に、1名につき1時間～2時間程度の半構造化インタビューを中国語で実施した。インタビューに際しては、対象者に調査の目的、調査時の権利、プライバシー保護、調査結果の公表について説明し、同意を得た。主な質問項目は、1) アルバイトに従事した目的、2) アルバイトを通して得た肯定感、3) アルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす影響である。

### 2-2. 対象者

インタビュー時、対象者の年齢は22歳～29歳（平均年齢：24.6歳）、所属は学部生2名、博士前期課程2名、博士後期課程1名、滞日期間は1年～4.5年（平均滞日期間：2.5年）であった。アルバイト先はコンビニやドラッグストア、スーパーなどの販売業が多く、アルバイトの内容はレジや品出しなどが多かった。対象者の属性の詳細を表1に示す。

表1 対象者の属性

対象者	性別	年齢	所属	滞日期間	現在のアルバイトの内容	スタート時期
A	男	23	博士前期課程 1年	1年	コンビニ（レジ）	2016年1月
B	男	24	学部3年	4年半	外国人向けガイドブック のライター	2015年4月
C	男	22	学部2年	3年5ヶ月	ドラッグストア	2015年6月
					建築事務所	2016年1月
D	男	29	博士後期課程 2年	1年半	スーパー（品出し）	2016年8月
E	男	25	博士前期課程 2年	2年3ヶ月	スーパー（品出し）	2016年3月

### 2-3. 分析方法

中国人男子私費留学生のアルバイトの目的、アルバイトの肯定感、及びキャリアへの影響（研究1）の分析に当たっては、インタビューから得られた内容を文字化（内容についてはバックトランスレーションを行った）し、KJ法（川喜田, 1967）を援用して分類・整理した。インタビューデータから各質問項目について語られた部分を取り出し、一行見出しを作った。次に、内容に類似性がある一行見出しをまとめてグループ化し、小カテゴリーとし、カテゴリー名を生成した。同様の手順により、中カテゴリー、大カテゴリーにまとめた。

進路予定の違いによって、アルバイトの目的、アルバイトの肯定感、及びキャリアへの影響がどのように異なるのかを検討する（研究2）ために、まず、将来の進路予定別に対象者を分けた。次に、その対象者別に研究1で得られた各カテゴリーを分類した。

### 3. 結果と考察

#### 3-1. 研究1の結果と考察

上述の通り、各質問項目についてKJ法を援用して分類・整理を行った。分析結果については、大カテゴリーを『、中カテゴリーを《》、小カテゴリーを〈〉、単独カードを〔〕で表す。

##### 3-1-1. 中国人男子私費留学生のアルバイトの目的

中国人男子私費留学生がアルバイトに従事した目的として、『金銭獲得』11件、『日本社会・日本人との接触と理解』9件、《自己実現》6件が得られた。その結果を図1に示す。

『金銭獲得』には、《生活費の獲得》《家族の負担の軽減》〈自由に使えるお金の獲得〉がある。まず、《生活費の獲得》には〈生活の厳しさ〉と〈為替の変動によるお金の不足〉がある。「まだ奨学金がないので、アルバイトをしないと生活が厳しい」など、生活費をまかなうためにアルバイトに従事していることが分かる。次に、《家族の負担の軽減》には〈親のお金を使うことに対する居心地の悪さ〉と〔家族の仕送りについての配慮〕がある。対象者は「いつまでも親からお金をもらうのは居心地が良くない」などと語っており、アルバイトに従事するのは家族に対する気遣いや配慮である様子が窺える。最後に、「大

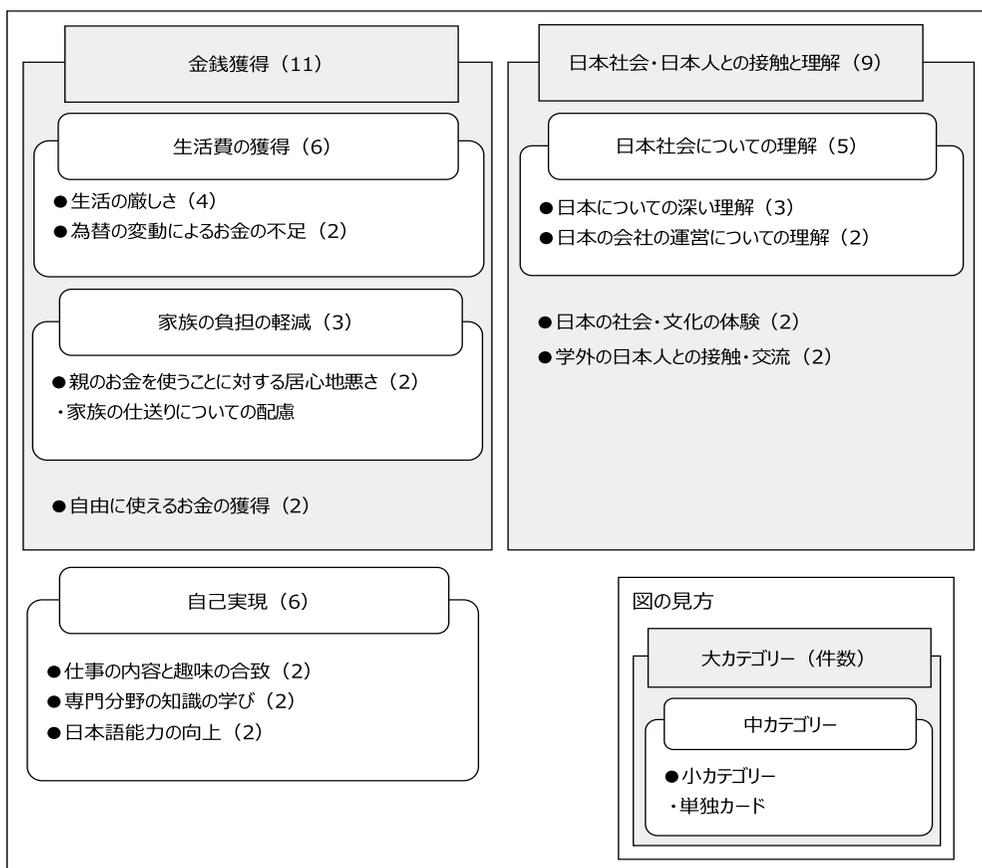


図1 アルバイトの目的

学に入ったばかりの時は結構遊んでいて・・・自分で自由に使えるお金が欲しいと思った」など、日本で生活費や学費とは別に、娯楽や趣味に使う費用のためにアルバイトに従事していることが分かる。

また、『日本社会・日本人との接触と理解』には、《日本社会についての理解》<日本社会・日本文化の体験><学外の日本人との接触・交流>がある。《日本社会についての理解》にはく日本についての深い理解><日本の会社の運営についての理解>がある。対象者は「日本のいろいろなことをもっと知りたい」「日本のメディアの運営について知りたかった」などと語っており、日本の社会について理解するためにアルバイトに従事していることが分かる。また、「日本に留学したからには、日本の文化を体験したい」や「大学の中の日本人と日本社会の日本人はやはり違うところがあるので、日本社会の日本人と接触してみたかった」などと語っていた。つまり、アルバイトを通して学外の日本社会や日本人と接触し、様々な側面から日本を理解しようとする様子が見られた。

さらに、《自己実現》には、<仕事の内容と趣味の合致><専門分野の知識の学び><日本語能力の向上>がある。「この仕事は私の趣味に合う」「専門分野と関連する仕事なので、学びが多い」や「大学の日本語だけでは足りないと思った。外に出て日本人と交流しないと、日本語能力が伸びるのが遅いと思って・・・」などの語りがあり、アルバイトを通して自身の目標を達成しようとしていることが分かる。

以上のように、中国人男子私費留学生がアルバイトに従事する目的は、生活費、自分の趣味や娯楽に自由に使えるお金のためなど、金銭面での理由が最も多かった。ここからは、中国人男子私費留学生の多くは、日本での生活のためという「外発的動機」を持ってアルバイトに従事していることが分かる。これは、日本学生支援機構（2016）の調査や黄（2015）の調査結果と一致する。それに加えて、『日本社会・日本人との接触と理解』という社会との接点を求める「社会的動機」、《自己実現》という「内発的動機」を持ってアルバイトに従事している傾向が見られた。

### 3-1-2. 中国人男子私費留学生のアルバイトの肯定感

中国人男子私費留学生がアルバイトを通して得られた肯定感として、『日本社会・日本人の理解』45件、『自己成長』26件、『生活手段の獲得』14件、『人間関係の形成』8件が得られた。その結果を図2に示す。

『日本社会・日本人の理解』には、《日本社会についての理解》《日本人の職務態度についての理解》<日本人の考え方についての理解><日本人の仕事状況についての理解>がある。まず、《日本社会についての理解》には、<日本のサービス業についての理解><職場の人間関係についての理解><日本社会についての理解の深まり><日本社会の優しさについての理解><日本・日本の会社についてのイメージの変化><日本人のアルバイトの状況についての理解>〔他大学の事情についての理解〕〔中国社会と日本社会の違いについての理解〕がある。対象者は「日本のサービス業のマナーはとても厳しい」「アルバイト先の人づき合いは学校とは違う」「日本社会はとても友好的だと思う」などと語っており、アルバイトを通して様々な側面から日本社会について理解を深めている様子が窺える。次に、《日本人の職務態度の理解》には、<日本人の真面目な仕事態度についての理解><日本人のネガティブな仕事態度への気づき><日本人の厳格な仕事態度についての理解>がある。「日本人はみんな一生懸命働いている」「日本人は勤務時間をきちんと守り、時間に厳しい」などの語りがあり、中国人男子私費留学生はアルバイトを通して日本人の真面目で厳格な仕事態度について理解している様子が窺える。一方で、「日本人は少し責任感が足りないと思う。（仕事上）問題に気づいてもあまり言わない時がある」など、日本人のネガティブな仕事態度を指摘する語りもあった。また、「日本人は相手の立場にたって物事を考えることが多い」「夜遅くまで働いていて本当に大変だと思う」など、アルバイトを通して日本人の考え方や仕事の状況につい

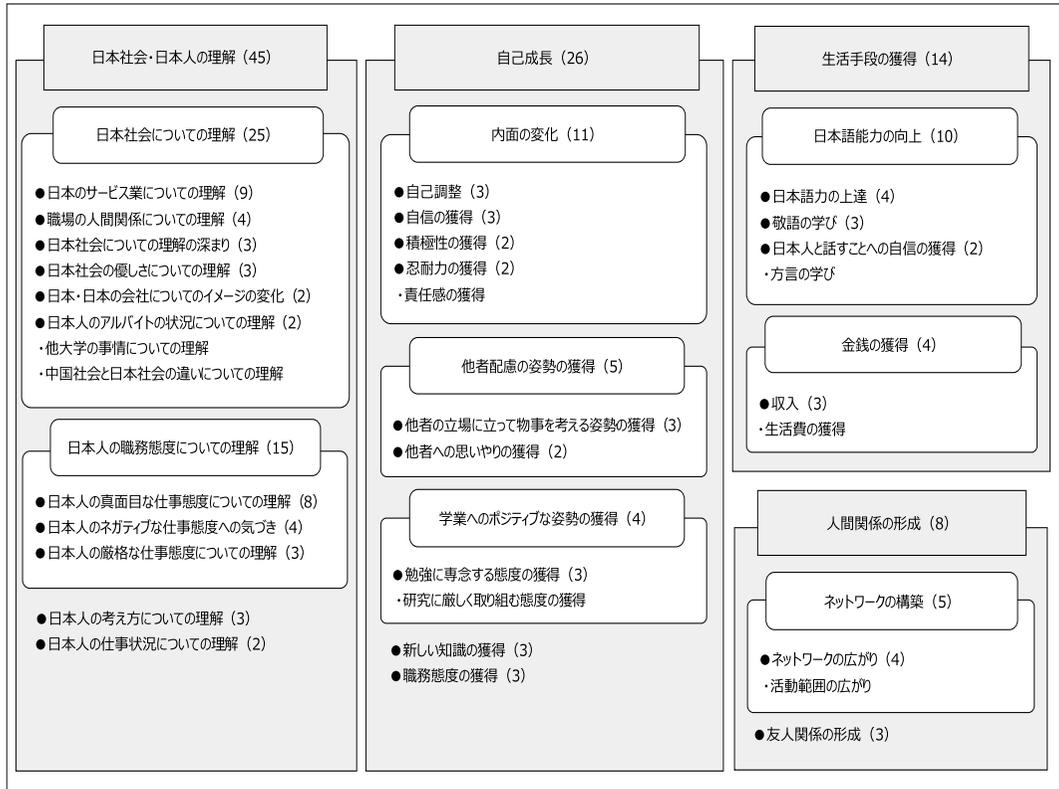


図2 アルバイトの肯定感

て理解していることが分かった。

『自己成長』には、《内面の変化》《他者配慮の姿勢の獲得》《学業へのポジティブな姿勢の獲得》《新しい知識の獲得》《職務態度の獲得》がある。まず、《内面の変化》には《自己調整》《自信の獲得》《積極性の獲得》《忍耐力の獲得》〔責任感の獲得〕がある。対象者は「この仕事が好きでも嫌いでも自分の心を調整することが大事」「自分の力で問題を解決する自信がついた」「もっと積極的になった」などと語っており、アルバイトを通して内面の変化が生じたことが分かる。次に、《他者配慮の姿勢の獲得》には、《他者の立場にたつて物事を考える姿勢の獲得》《他者への思いやりの獲得》がある。「お客さんの立場にたつて物事を考えないといけない」「何かをするときは他の人のためにと考えるようになった」など、他者に配慮する気持ちや姿勢が得られた様子が窺える。また、《学業へのポジティブな姿勢の獲得》には《勉強に専念する態度の獲得》〔研究に厳しく取り組む態度の獲得〕がある。対象者は「(将来のために) 勉強に真面目に取り組んでいる」などと語っており、アルバイトの経験を通して、学業に熱心に取り組む姿勢が得られたことが分かる。最後に、「以前は日本の食品の分類などについて知らなかった。・・・スーパーの仕事を通して、少しずつ分かるようになった」「お客さんとは笑顔で接することを学んだ」など、中国人男子私費留学生はアルバイトを通して、今まで知らなかった新しい知識を得たり、接客マナーなど職務態度について学んだと考えられる。

『生活手段の獲得』には、《日本語能力の向上》と《金銭の獲得》がある。《日本語能力の向上》には、《日本語能力の上達》《敬語の学び》《日本人と話すことへの自信の獲得》〔方言の学び〕がある。「アルバイト先でお客さんと話すことによって日本語のレベルが向上した」「お客さんとは敬語で話さないと

いけない。敬語について学んだ」「日本人と話すのに自信がついた」「アルバイト先ではみんな方言を使うので、慣れた」など、アルバイト先の人々との接触や交流を通して日本語能力が向上したと考えられる。《金銭の獲得》には、〈収入〉と〔生活費の獲得〕がある。対象者は「この仕事を通して少し収入があるので、国内の生活とは比べられないが、衣食は十分だ」などと語っており、アルバイトを通して収入が得られたことを肯定的に認識していることが分かる。

『人間関係の形成』には、《ネットワークの構築》と〈友人関係の形成〉がある。《ネットワークの構築》には、〈ネットワークの広がり〉と〔活動範囲の広がり〕がある。「アルバイトは社会に一步を踏み出したことになるので、様々な機会が得られ、ネットワークが広がった」など、アルバイトを通して社会との接点を得られ、ネットワークが学外へと広がったことが分かる。また、「アルバイトの同僚の中には、他大学の日本人学生もいて、中国大陸や香港の人もいるので、たくさん友だちができた」など、アルバイトを通して友人関係が形成されたと考えられる。

以上のように、中国人男子私費留学生はアルバイトを通して得られた『日本社会や日本人の理解』において最も多くの肯定的意識を抱いていることが分かった。それに加えて『自己成長』という自身の内面の変化や『生活手段の獲得』『人間関係の形成』など、様々な面で肯定感を得ている。中国人女子私費留学生を対象とした研究（黄，2015）と同様に、中国人男子私費留学生は《生活費の獲得》などの目的を持ってアルバイトに従事したものの、アルバイトを通して目的以外のものを獲得したと考えられる。留学生にとってアルバイト先は学外の日本人や日本社会と接触し、交流できる場所の一つである。対象者は、「大学の中では留学生だと多少優遇してもらっているかも知れないが、社会だとそれは通用しないと思う。留学生だからといって、優遇はしてもらえないと思う。なので、アルバイトをすることによって、もっと現実的な日本を理解できると思う」と語っている。つまり、大学キャンパスは留学生の状況にある程度理解している学生や教職員との接触や交流でいいという、ある意味「守られた環境」であるが、学外は年齢や経歴、価値観などが様々な日本人と接触、交流することが求められる「多様な環境」である。このような中、中国人男子私費留学生は学外での体験を通して、「本当の日本」について様々な肯定感を得ている。特に、『日本社会や日本人の理解』を肯定的に評価しており、中国人男子私費留学生にとってアルバイトの経験は日本社会や日本人を理解する一助となっていると考えられる。

### 3-1-3. キャリアへの影響

アルバイト経験が将来のキャリアに及ぼす影響として、『影響あり』12件と《影響の少なさ》6件に大別された。その結果を図3に示す。

『影響あり』には《仕事態度》〈自分自身の変化〉〈新しい知識の獲得〉〈ネットワークの利用〉がある。《仕事態度》には〈真面目な仕事態度〉〔責任感〕がある。対象者は「時間をきちんと守る仕事態度はきっと役に立つと思う」「お客さんに対する責任感」などと語っており、アルバイトを通して得た仕事態度が将来のキャリアに役に立つと認識している。また、「学校では留学生はある程度甘やかしてもらっているが、社会ではそうではない。そんなに甘くない。自分を鍛えられる」「アルバイト先では日本の会社の経営方法について学ぶことができる」「アルバイト先で知り合った人の実力が分かるので、彼らに頼みやすい、騙されない」など、アルバイトを通して自分自身が鍛えられ強くなったことや、新しい知識を学んだり、アルバイト先で構築されたネットワークが利用できたりすることが将来のキャリアに役に立つと考えている様子が窺える。

《影響の少なさ》には、〈将来の仕事への役立たなさ〉〔技術の学びのなさ〕がある。「今の仕事は

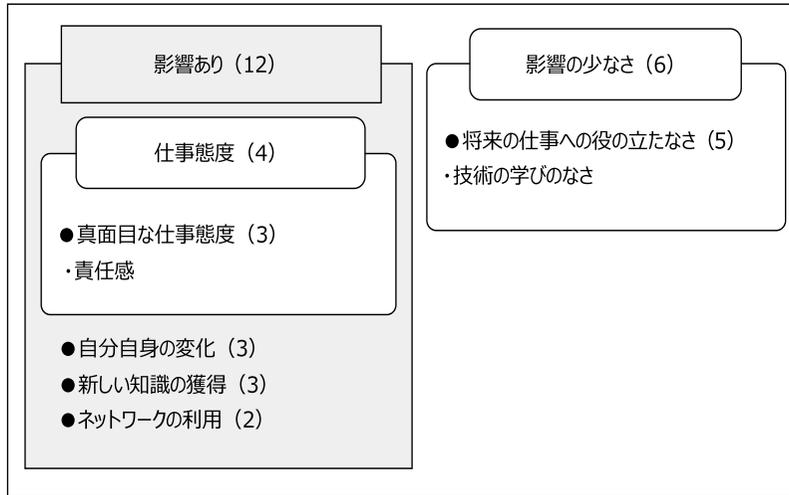


図3 キャリアへの影響

私の専攻とは違うし、将来の仕事にあまり影響を与えないと思う「アルバイト先では技術面で学ぶことはない」など、アルバイトの内容と将来の正規の仕事の内容は異なるため、アルバイトが将来のキャリアに及ぼす影響があまりないと認識している。

このように、中国人男子私費留学生は「仕事態度」や「自分自身の変化」「新しい知識の学び」「ネットワークの利用」においては将来のキャリアに影響があると考えている。一方で、アルバイトの内容が専門分野とは異なる場合は新しい知識や「技術を学ぶことがない」と認識し、「将来のキャリアへの影響が少なさ」と考えていることが分かる。

### 3-2. 研究2の結果と考察

研究2では対象者の今後の進路予定である、「日本で起業」(対象者B, C)、「日本で就職」(対象者A, D)、「帰国して就職」(対象者E) 別に対象者を分け、研究1で得られたカテゴリーを分類した。詳細としては、「アルバイトの目的」として得られたカテゴリー『金銭獲得』『日本社会・日本人との接触と理解』『自己実現』、「アルバイトの肯定感」として得られたカテゴリー『日本社会・日本人の理解』『自己成長』『生活手段の獲得』『人間関係形成』、また、「キャリアへの影響」として得られたカテゴリー「仕事態度」「自分自身の変化」「新しい知識の獲得」「ネットワークの利用」「影響の少なさ」について分類した。その結果を表2に示す。

まず、将来の進路予定が「日本で起業」の場合、アルバイトに従事した目的は『金銭獲得』『日本社会・日本人との接触と理解』『自己実現』である。また、アルバイトを通して得られた『日本社会・日本人の理解』『自己成長』『生活手段の獲得』『人間関係の形成』を肯定的に認識している。将来のキャリアについては、「仕事態度」「自分自身の変化」「新しい知識の獲得」「ネットワークの利用」が影響を与えると認識している。次に、進路予定が「日本での就職」の場合、アルバイトに従事した目的は「日本で起業」の場合と同様に、『金銭獲得』『日本社会・日本人との接触と理解』『自己実現』である。また、アルバイトの肯定感についても「日本で起業」の場合と同様で、『日本社会・日本人の理解』『自己成長』『生活手段の獲得』『人間関係の形成』を肯定的に認識している。さらに、「仕事態度」「自分自身の変化」「新しい知識の獲得」においては将来のキャリアに影響を与えると考えているが、一方で、アルバイトの経験

表2 進路予定によるアルバイトの目的、アルバイトの肯定感及びキャリアへの影響

進路予定	アルバイトの目的	アルバイトの肯定感	キャリアへの影響
日本で起業	『金銭獲得』 『日本社会・日本人との接触と理解』 《自己実現》	『日本社会・日本人の理解』 『自己成長』 『生活手段の獲得』 『人間関係の形成』	《仕事態度》 《自分自身の変化》 《新しい知識の獲得》 《ネットワークの利用》
日本で就職	『金銭獲得』 『日本社会・日本人との接触と理解』 《自己実現》	『日本社会・日本人の理解』 『自己成長』 『生活手段の獲得』 『人間関係の形成』	《仕事態度》 《自分自身の変化》 《新しい知識の獲得》 《影響の少なさ》
帰国して就職	『金銭獲得』	『日本社会・日本人の理解』 『生活手段の獲得』	《影響の少なさ》

が将来のキャリアに及ぼす《影響が少ない》と認識している。最後に、将来の予定が「帰国して就職」の場合、アルバイトに従事した目的は『金銭獲得』である。また、アルバイトの肯定感として『日本社会・日本人の理解』『生活手段の獲得』を認識しており、アルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす《影響が少ない》と認識している。

このように、将来の進路予定が「日本で起業」の場合と「日本で就職」の場合、アルバイトの目的は同様であり、「外発的動機」「内発的動機」「社会的動機」など、様々な目的を持ってアルバイトに従事している。また、アルバイトを通して得た肯定感も同様であり、アルバイトを通して金銭という道具的な側面はもちろん、自己成長という心理的な側面、日本社会や日本人の理解、人間関係という社会や人と関わる側面など、様々な内容で肯定感を得ている。将来のキャリアに及ぼす影響については、「日本で起業」の場合《ネットワークの利用》を評価しているが、「日本で就職」の場合《影響が少ない》と語っている。日本社会において、日本人に比べて人脈が少ない外国人にとって、アルバイト先で築かれたネットワークは将来の起業のために活用できるリソースの一つであると考えられる。しかし、卒業後専門分野の知識を活かす職業に就きたいと思う場合は、仕事内容が現在のアルバイトの内容とは異なる可能性が大きいため、アルバイトの経験はキャリアにあまり影響を与えないと考えているのではないだろうか。

「帰国して就職」の場合、アルバイトの目的が『金銭獲得』という「外発的動機」のみであり、アルバイトの肯定感も「日本で起業」や「日本で就職」の進路予定に比べると少ない。外発的動機づけよりも内発的動機づけのほうが、創造性、責任感、健康な行動、変化の持続性という点で優れている（Deci & Flaste, 1995（桜井（訳）, 1999））ことから、アルバイトの目的が「外発的動機」のみの場合、自己成長などの心理面での肯定感を認識しにくいのではないだろうか。また、中国と日本は職場環境や人間関係構築などの面でそれぞれ異なるため、中国に帰って就職する場合、日本での経験はあまり役に立たないと認識していると考えられる。

さらに、対象者に共通して見られたのは、アルバイトの目的においては『金銭獲得』、アルバイトの肯定感においては『日本社会・日本人の理解』『生活手段の獲得』である。「日本では生活費が高くて、負担が大きい。自分でアルバイトをして、生活費を稼いだかった」など、アルバイトに従事するのは日本での生活費などの金銭を得ることが目的である場合、「この仕事を通して、収入が得られた」など、収入面を肯定的に認識しやすいと考えられる。また、アルバイトに従事したことにより、日本社会や日本人と接触・交流することができ、大学キャンパス内では接触できない「本当」の日本社会や日本人に対する理解を深められたと推測できる。

#### 4. 結果のまとめと総合的考察

本研究では、中国人男子私費留学生を対象に、アルバイトに従事した目的、アルバイトを通して得たと認識する肯定感、アルバイトが将来のキャリアに及ぼす影響について明らかにした。また、将来の進路予定別に、アルバイトの目的、アルバイトの肯定感、キャリアへの影響がどのように異なるかを検討した。以下では、本研究の結果についてまとめ、中国人男子私費留学生と黄（2015）で得られた中国人女子私費留学生の結果を比較しながら総合的考察を行う。

まず、中国人男子私費留学生がアルバイトに従事する目的として、『金銭獲得』『日本社会・日本人との接触と理解』『自己実現』が得られた。黄（2015）は、中国人女子私費留学生は「自己満足」<金銭獲得><消極性>の目的を持ってアルバイトに従事していると述べており、中国人男子私費留学生と女子私費留学生は、「外発的動機」と「内発的動機」、両方を持ってアルバイトに従事していることが分かる。自己決定理論によると、自己決定度の高い内発的動機づけを持つほど肯定的な結果と関連する（Ryan, Deci & Grolnick, 1995）。また、外発的動機づけを自身の判断によって自分の価値観の一部に取り入れていくことが、成功するための要因となる（根本, 2016）。つまり、アルバイトの目的において、「自己満足」などの「内発的動機」を持つことが重要であり、それに加えて、日本での勉学や生活に必要な生活費を得るための「金銭獲得」など、自身の日常生活や価値づけられた目標との適合性が高い「外発的動機」（Ryan & Deci, 2000）をうまく自身の中に取り入れていく必要があると考えられる。また、中国人男子私費留学生は「日本社会の日本人と接触したい」「日本について深く理解したい」など、『日本社会・日本人との接触と理解』のためにアルバイトに従事しているが、中国人女子私費留学生の場合は「特に明確な目的はない」などの「消極的」な目的でアルバイトに従事している。中国人男子私費留学生の方が女子私費留学生よりも社会との接点を求めてアルバイトに従事することが分かる。黄（2015）では、中国人女子私費留学生の今後の進路予定について詳細に調査していないため、一概に比較することはできないが、今回の対象者である中国人男子私費留学生は、将来「日本で起業」することを考えている対象者もあり、アルバイトを通して日本社会と接触し、理解をしようとしたのではないだろうか。

次に、中国人男子私費留学生はアルバイトを通して、『日本社会・日本人の理解』『自己成長』『生活手段』『人間関係の形成』を肯定的に認識している。中国人女子私費留学生は『自己認識』『日本社会・日本人への認識』『生活手段』を肯定的に認識しており、『日本社会・日本人への認識』には、「日本人・日本社会への理解」と「人間関係」がある（黄, 2015）。つまり、中国人男子私費留学生と女子私費留学生ともに、アルバイトを通して日本社会や日本人に対する理解を深めたことや自分自身が成長したこと、生活手段を獲得したこと、人間関係を構築したことを肯定的に認識していることが分かる。「内発的動機」を持ち、「金銭獲得」を日本で勉学や生活のために必要なこととして位置づけ、「外発的動機」が自身の目標と合致する自己決定性の高い場合、アルバイトの経験を様々な側面で肯定的に認識しやすいと考えられる。

最後に、進路予定別にアルバイトの目的、アルバイトの肯定感、キャリアへの影響について検討した。その結果、将来のキャリアが「日本で起業」と「日本で就職」の場合、アルバイトの目的とアルバイトの肯定感の内容が同様であり、キャリアへの影響の内容も類似する傾向が見られた。学業を終え、日本で「起業」や「就職」する場合、職場では日々日本人と接触し、職場の規則や職務スタイルが日本的なところが多いと考えられる。黄・小松・加賀美（2017）は、日本の大学や大学院を卒業した中国人元留学生を対象に、日本の職場における存在意義と就労の意味について調査を行い、中国人元留学生は日本の職場で働くうえで、「良好な職務態度」を重視していると述べている。つまり、中国人男子私費留学生においても日本で

働くうえで、アルバイトの経験を通して得た日本社会や日本人の職務態度についての理解、日本語能力などを肯定的に認識し、真面目な仕事態度や忍耐力の獲得という自分自身の変化、日本の会社の経営方法についての学びなどの新しい知識の獲得が必要だと認識したのではないだろうか。一方で、「帰国して就職」の場合は、アルバイトの目的は「外発的動機」のみと単純で、その「外発的動機」が自身の目標や価値観と合致していなかったことが考えられ、アルバイトの肯定感が少なかった。また、アルバイトの経験は将来のキャリアにあまり影響を与えないと考えている。「(中国) 国内の仕事は日本とやはり違うと思う。国内では結構適当に働く、毎日適当に働いて、毎日を過ごせばいい・・・」「日本人は相手のために問題を考えることが多い。中国人は自己中心的な人が多い・・・」など、日本と中国の職場環境や仕事スタイル、労働価値観、職場における人間関係などはそれぞれ異なると考えられる。そのため、アルバイトを通して身につけた礼儀作法や仕事態度、新しい知識が中国で必ずしも応用できるとは限らないと考えたのではないだろうか。さらに、「日本と中国は結構違う。でも、私の専門は日本で仕事を見つけるのがとても難しいので、中国に帰るしかない。・・・私は帰って法律に関する仕事をしたいから、・・・(アルバイトの経験が仕事に及ぼす影響は) あまりないと思う」など、将来、専門知識を生かした仕事に従事する場合は、サービス業などのアルバイトを通して得られた経験があまり役に立たないと認識する様子が窺えた。

本研究では、中国人男子私費留学生に焦点を当て、アルバイトの目的とアルバイトの肯定感、キャリアへの影響について検討を行った。アルバイトの肯定感においては、中国人女子私費留学生を対象に行った黄 (2015) と同様で、中国人私費留学生はアルバイトを通して、様々な側面で肯定感を得ていることが分かった。中国ではアルバイト経験がほとんどない彼らにとって、日本でのアルバイトは初めての仕事体験だと思われる。このような中、中国人私費留学生は生活費や娯楽などに費やす費用のためにアルバイトを始めたものの、アルバイトを通して日本社会と日本人の理解はもちろん、学業へのポジティブな姿勢を獲得するなどの自己成長が得られ、人間関係が構築されていた。アルバイトが中国人私費留学生に及ぼす影響は本来の目的以上に大きかったと考えられる (黄, 2015)。また、アルバイトの経験が将来のキャリアに及ぼす影響については、将来、日本で「起業」「就職」など、日本との関わりを持ち続ける場合は、アルバイトの経験が将来のキャリアに影響を及ぼすと考えているが、「帰国して就職」など、日本との関わりを持たない場合は、アルバイトの経験をあまりポジティブに捉えない傾向が見られた。中国人男子私費留学生は、アルバイト先で獲得した仕事態度や新しい知識、自分自身の変化が将来のキャリアに影響を及ぼすと考えており、これは、日本人大学生を対象にした西・柳澤 (2010) の研究結果と一致する。つまり、アルバイト活動を通して職務遂行スキルや態度の獲得に関わる学習を遂げた学生ほど、アルバイトを通して学んだことを将来の職業へ生かそうとしている (西・柳澤, 2010) と考えられる。さらに、アルバイトが進路志望に与える影響には男女の差がある (宮本, 2009) との指摘がある。黄 (2015) は、中国人女子私費留学生がアルバイトを通して、「キャリア意識」を肯定的に認識すると述べているが、それが将来の進路予定別にどのように異なるかについては詳細に検討を行わなかった。本研究では、中国人男子私費留学生に焦点を当て、アルバイトが将来のキャリアに与える影響を明らかにしたことに意義があると思われる。日本での生活の中で、アルバイトの従事率の高い中国人留学生を対象に、アルバイトの経験について詳細に分析した研究は、管見の限り見当たらない。その中、本研究と黄 (2015) は、中国人男子私費留学生と女子私費留学生を対象に、アルバイトの目的、及びアルバイトを通して得た肯定感やアルバイトが将来のキャリアに及ぼす影響について明らかにしたことに意義があると言える。

## 5. 今後の課題

本研究は、対象者の人数や属性に限界があり、アルバイトの業種や内容においても偏りがあるため、過度な一般化を避けたい。今後は量的調査を行い、アルバイトの目的、アルバイトの肯定感、及び将来のキャリア意識についてより詳細に検討し、アルバイトの肯定感が将来のキャリア意識に及ぼす影響などについて明らかにしたい。

### 註

- i 統合的動機づけは、行動を起こす際に自分の日常生活や価値づけられた目標との適合度が高いこと、また、行動が統合されていることを意味する (Ryan & Deci, 2000)。

### 参考文献

- 岡益己・深田博己 (1994) 「中国人留学生と就学生の意識」『岡山大学経済学会 雑誌』26(1), 1-28.
- 加賀美常美代 (1994) 「異文化接触における不満の決定因－中国人就学生の場合」『異文化間教育』8, 117-126.
- 加藤司・伊藤崇達・石橋寛子・小石寛文 (2002) 「自己決定理論に基づく動機づけのタイプと職務満足感との関連性－アルバイト学生を対象に－」『神戸大学発達科学部人間科学研究センター人間科学研究』9(2), 1-9.
- 川喜田二郎 (1967) 『発想法－創造性開発のために－』中央公論社.
- 川田裕次郎・真家英俊・鈴木光男・木内菜保子・高橋一公・金塚基・深谷幸恵・藤後悦子 (2012) 「大学生における学校生活満足度－学校行事への積極性、進路への意識及びアルバイト実施状況との関連から－」『日本教育心理学会総会発表論文集』54, 352.
- 厚生労働省 (2016) 「「外国人雇用状況」の届出状況まとめ (平成28年10月末現在)」<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000148933.html> (閲覧日 2017年11月18日)
- 黄美蘭 (2010) 「日本語学校に通う中国人学生の被差別感と原因帰属との関連－アルバイト先の事例を中心に－」『お茶の水女子大学人間文化創成科学論叢』13, 59-67.
- 黄美蘭 (2015) 「アルバイトの目的とアルバイトを通して得た肯定感－中国人女子私費留学生の場合－」『お茶の水女子大学人文科学研究』11, 125-134.
- 黄美蘭・小松翠・加賀美常美代 (2017) 「中国人元留学生の日本の職場における存在意義と就労の意味」『留学生教育学会第22回大会抄録集』3C17-3C18.
- 小島祐子 (2003) 「学習リソースとしてのアルバイト－就学生を対象として－」『桜美林国際学論集 Magis』8, 199-213.
- 杉山成 (2009) 「アルバイト経験はキャリア意識の形成にどのような影響を与えるのか (2) : アルバイトの位置づけに関する検討」『小樽商科大学人文研究』117, 1-14.
- 関口倫紀 (2010) 「大学生のアルバイト経験とキャリア形成」『日本労働研究雑誌』25(9), 67-85.
- 譚紅艶・渡邊勉・今野裕之 (2009) 「動機づけの自己決定性が在日中国人留学生・就学生の仕事満足感に及ぼす影響」『目白大学 心理学研究』5, 117-123.
- 西宏樹・柳澤さおり (2010) 「大学生のアルバイトの活動を通じた学習－アルバイトの目標と活動の意識化の効果－」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』42, 285-292.
- 日本学生支援機構 (2006) 「平成17年度私費外国人留学生生活実態調査」[http://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj\\_chosa/\\_icsFiles/afeldfile/2015/11/05/ryujchosap08.pdf](http://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj_chosa/_icsFiles/afeldfile/2015/11/05/ryujchosap08.pdf) (閲覧日 2017年8月30日)

中国人男子私費留学生のアルバイト経験とキャリア意識

- 日本学生支援機構 (2016) 「平成27年度私費外国人留学生生活実態調査」 [http://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj\\_chosa/\\_icsFiles/afieldfile/2016/09/23/ryujchosa27p08.pdf](http://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj_chosa/_icsFiles/afieldfile/2016/09/23/ryujchosa27p08.pdf) (閲覧日 2017年8月30日)
- 根本愛子 (2016) 『日本語学習動機とポップカルチャー』 ハーベスト社.
- 宮本幸子 (2009) 「アルバイトが進路志望に与える影響－性差の違いに着目して－」 『東京大学教育学部比較教育社会学コース 研究所報 (第三部 学校外の活動と社会観)』 49, 167-176.
- 山田陽子 (2010) 『中国人就学生と中国帰国子女－中国から渡日した子どもたちの生活実態と言語－』 風媒社.
- Deci, E. L. & Flaste, R. (1995) *Why We Do What We Do: Understanding Self-Motivation*, Renguin Books (桜井茂男 (訳) (1999) 『人を伸ばすカー内発と自律のすすめ』 新曜社.)
- Ryan, R. M., Deci, E. L. & Grolnick, W.S. (1995) Autonomy, relatedness, and the self: Their relation to development and psychopathology. In D.Cicchetti & D.J.Cohen(Eds.). *Developmental psychopathology: Theory and methods*, 618-655.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2000) Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist*, 55, 68-78.

【付記】 本研究はJSPS科研費16K16863の助成を受けたものである。

